

一般社団法人 日本の未来構築研究機構

代表理事(理事長)

一柳良雄氏

価値の創造という観点での人材育成

〜世界から尊敬され、

若者が夢をもつて活躍できる日本を目指して〜

聞き手 本誌主幹 大中西一

幅広いジャンルと

世代が本気で集う場所

— テレビ番組「一柳良雄が問う日本の未来」の放送が300回を超えたことで、おめでとつございます

一柳 ありがとうございます。そもそもは、私が通産省を退官し、6人の現役の課長補佐たちと勉強会を始めたのがきっかけでした。主旨は日本の未来構築を作り上げようということ、心ある官僚と丁々発止と議論しました。そこで作成した「新家戦略構想」という報告書をたまた

ま目にしたフジテレビ副社長の出馬、迪男さんが興味を持ってくださり、「これをテレビでやりましょう」とおっしゃってくださいだったので。

— コンサルティング会社の『一柳アソシエイツ』とは別の次元でスタートしたのですね

一柳 そうなのです。ところが、いざ始めようとすると、官僚はどなたもテレビに出たがらない。— ノウハウは提供できても本人の顔は提供できないわけですね
一柳 ちょうどその時期に出馬さんが関西テレビの社長になり、その際に、私とお付き合いのあった経営者

の皆さんが「この日本の未来構想をテレビでやろう」と応援し、スポンサーになってくださり、番組が誕生したのです。

— BSテレ東ですね

一柳 2008年の開始当初は『BSフジ』だったのです。その後『BS11BS』に移ったのですが、エネルギー問題のお話の際に、私は原子力発電というのはエネルギーにおける選択肢の1つであるという立場で、TBSは反原発。私のお話は放送できないとなって、それでスポンサーともども『BSテレビ東京』に大移動することになったのです。

— 一柳さんがそこで目指したことは何だったのでしょうか

一柳 まず1番目は、日本の未来を「考える」ということの本質は何かをきちんと伝えること。2番目にそのことをしっかりと議論すること。そして3番目にそれを行動に移すということです。

— 単に机上の空論では意味がありませんから

一柳 そのために、番組を通じて私はテーマを提供し、それを多くの皆さんが議論してください、そこで生まれた答えを実践していただくことが肝心だと思います。



一柳良雄氏

——一柳さんはそれを応援する立場ですね

一柳 番組を離れても、ベンチャービジネスや起業した方など、その応援を一所懸命に行うというのが基本ですね。

——「一流塾」もありますね

一柳 そこに入っていたとしても良いですし、そうやって実践していく中で、自分の器の範疇で「日本が世界から尊敬される」、そして「若者が将来を目指して頑張ることができ」、「こういう国づくりをやる」ということで、テレビで発信し、受け皿として塾を作り、さまざまな活動を続けてきたのです。

——ここまでの活動を通じて訴えてきたことは何だとお考えですか

一柳 私が提供する場で多くの方たちと会話し、多くの気付きや学びが

あったら、即刻行動に移していただき、さらには失敗もしていただきたい。その失敗からの学びこそが、真の意味で皆さんを成長させてくれるのだ、ということを訴え続けてきたつもりです。

——泥臭く実践しているという姿勢ですね

一柳 上辺だけ飾った会話や、気取った会話では、本当の意味でのコミュニケーションは取れないと思いますし、真の理解も得られないと思います。本質、本音の会話・議論をしないといけないことです。

——それで幅広いジャンルに及ぶわけですね

一柳 最近はジャンルだけでなく、幅広い世代^①が加わりました。とくに未来を背負って立つ若い世代の皆さんに向けて、我々年寄りが持っている知見を提供し、アドバイスしている機会となればと思いますし、我々がチャレンジしてきた、あるいはチャレンジしている背中を見せることが大切だと思います。

——具体的な成果や効果はいかがですか

一柳 私の周辺にも多くのZ世代のベンチャーの方たちが集まってきますが、この方たちが「このオッサン78歳やで、このオッサンがこんな元気にやっているのに、自分たちももっと元気にやらなければいけない」と言ってくれるのです。

——確かに元気がすよね

一柳 でも、それが若い方たちへの刺激になれば、こんなうれしいことはありませんね。

日本のエネルギー問題は 後手後手ばかり

——ところで、先ほど原発の話も出

ました、昨今のエネルギーに対する我が国の取り組みはいかがでしょう

一柳 日本は人口が減少する傾向にあるので、エネルギーの消費量は減少していくとお考えの方が多いようですが、じつは大きな問題が2点あります。ひとつは、AIや半導体、そして大型化するデータ。これを処理し動かしていくために膨大な電気が必要になってきます。これまでの

概念では捉えきれないほど大量のエネルギーが、DXが進展するデータ社会で必要になってくると思います。

——もう一つは何でしょう

一柳 安全保障です。近年、ロシアのウクライナ侵攻や、イスラエルとハマスの戦闘などが発生すると、エネルギーのほとんどを海外に依存している日本は、一挙に電気代が上がり、さらにエネルギーの確保が出来なくなりそうです。これに対してどうに対処していくのか、ここをきちんと考えなくてはいけないと思いますね。

——確かに電気代だけでなく様々なものが値上がりし、物価高を招いています

一柳 先ほどの原子力と言えば、原子力発電所を持つリスクと持たないリスク、双方をきちんと並べて議論していかなければならないと思います。

——一方だけの議論では成り立たないということですね

一柳 安全安全といいますが、完全に安全であることは不可能ですし、人間である以上、ある程度のミ

スは致し方ないことだと考えるべきでしょう。そうすると、たとえ再稼働するにしても、炉心周りの安全性だけはきちんと担保できるようにしなければならぬと思います。それが再稼働における最低限の条件ですね。

——やはり安全性をどのような形で担保できるかを多角的に考えるという事です

一柳 さらに、マイクロソフトなどがやっているように、次世代の原子炉を使って、自社で消費するエネルギーを自社で賄うような仕組みも生まれてきています。そうしたさまざまな事象をさまざまな観点から検証し、より安全で効率の良い方法を見出していかなければならないと思います。

——大きな視野が必要なのです

一柳 原子力や火力、再生エネルギーなどを単体で議論するのではなく、可能な限りの方法論を検証し、その組み合わせの中で最適解を見出していく姿勢が大切です。目の前の原子力発電所の安全性に拘泥するのではなく、考えられる限りの方法論を検証して組み合わせることだと思

います。

——核廃棄物の最終処分場についてはいかがですか

一柳 これは、ずっと逃げてきたツケが回ってきた感がありますね。

——原子力発電所を動かす以上、核廃棄物は必ず発生しますから

一柳 一時期「トイレなきマンション」などと揶揄されましたが、いずれやります、そのうちやりますと言いながら、いまだに候補地も見つからず、やっと文献調査などと言っている段階ですからね。

——信じられないほどの後手後手ですね

一柳 さらに核廃棄物を狙ったハイジャックなど、安全保障も絡んでくる問題です。これまでも太平洋の無人島など、さまざまな方法が検討されてきましたが、どうしてもやらなければならぬことですからね。

——ブルサーマルもうまく進んでいませんしね

一柳 構想力をもってアンビシャスにやっついていこうということでしょね。政治的にも、あまり票にもならないという考え方が強くて、真剣に向き合っただけでなかった経緯があると

思います。

——再生可能エネルギーはいかがですか

一柳 洋上風力発電は将来性もあるし面白いと思いますね。部品点数も多いですし、立地させるインフラの整備も必要です。これを実現できれば世界に売り出せますからね。ただ日本は縦割りですからね。インフラも含めて総合力でやればよいのですが、それが可能になれば、システムとしての洋上風力発電は日本における大きな産業になっていくと思いますね。

尖がった提言と実行・実現

——さて、いよいよ日本のリーダー

が交代しますが

一柳 田中角栄さんの「日本列島改造論」がありますが、あそこには国土の発展、中核都市構想、高速道路網の拡充、新幹線など、多くの要素が論じられていますが、きちんと、「年寄りがやすらぎの余生を送り、青年の目に希望の光が輝く社会をつくりあげたい」という国を作ろうと書かれているのです。そういう「国づくり」を語る政治家じゃな

くてはダメなのです。

——そこが原点ですよ

一柳 その通りです。そこを語って、そこからさまざまな折衝や妥協をするべきなのです。

——現状の問題処理ではなく、未来を語る事が大切です

一柳 政治家は夢を持てる国、希望を持てる国を示すことがもつとも大切な仕事なのではないでしょうか。それをすることができればいいのです。次の選挙や目の前の損得の話ばかりしては駄目なのです。だから日本は漂流して地盤沈下し、行き場を失うのです。

——それを基盤としていかに官僚を使っているかですね

一柳 まさにその通りだと思います。官僚をうまく使いこなす能力が政治家は持たなければならぬのです。本人たちも自分は官僚よりも上だと言っているのですから。

——胆力と行動力と精神性ですね

一柳 今おっしゃった胆力とは覚悟ですよ。政治家は命を懸ける覚悟がなければならぬと思います。損得ではないのです。損得になると先送りが出てきますからね。難しい問



「一流塾」入塾は競争率が3倍

題はことごとく先送りして、目の前の票取りばかりを追いかけているのは政治家失格です。国家ビジョンを掲げ、それをやり抜く覚悟が必要なのです。

—— 一柳さんご自身も『一流塾』だけでなく様々な活動をしてこられました

一柳 エネルギー研究会や社長会など東京・大阪を中心に様々な会を催してきました。目的は仲間作りだったのですが、これをみんな辞めました。

—— エネルギー研究会などはもっと続けていたできたかと思つていますか

一柳 言葉は悪いですが、みんな老人クラブ化してしまつて活気がな

くなつてきています。もつと若い方たちと付き合つていかなければならないと思つています。そうなる、やはり『一流塾』なのです。

—— もう何年続けて来られましたか

一柳 17年になりますね。元気の良い方がたくさん来てくれて、入塾するの競争率が3倍にもなつています。やはり若い活気のある方たちと、過去ではなく未来の日本を語つていくことがライフワークですね。

—— そこで、老人クラブを断ち切つて、一柳さんが寿寿を迎えた昨年1月にスタートされたのが「一般社団法人 日本の未来構築研究機構」ですね

一柳 まず、行動する「社団」でありたいと考えています。提言ばかりをする「社団」が多いですが、「日本の未来構築研究機構」は行動し実行する「社団」でありたいのです。偉い人を集めて提言ばかりするのではなく、せっかくな勉強会をやつたら、尖がつた提言をしていきたいと思つています。

—— 尖がつた…ですか

一柳 その提言を誰がどう実行していくのか、それがわかる内容の提言

をしていかなければ意味がありません。そして行動を起こす際には、政治家、官僚、メディア、企業経営者、起業家などいろいろな人たちを巻き込んでいく。それが行動する「社団」の狙いなのです。

—— 具体性のある提言と実行ですね

一柳 そのためには、常に「だれがそれをやるのか」ということを考えていなければなりません。そして、そこで自分たちには何ができるのかも考えなければなりません。政府や官僚を当てにせず、自分たちが何を出せるのかを常に意識しなければなりません。

—— 具体的にはどんな提言でしょう

一柳 いま進みつつあるのは、ベンチャーと大企業の協業です。これで1兆円ベンチャーを作つてやろうと考えています。さらにAIなどが登場してくる中で、人間の価値をどう高めていくのかを訴求していきたいと考えています。人間の能力をどうやって高め、引き出していくのかを追求しなければならぬと考え、そこに向かつて尖がつた提言をしていきたいと考えています。

—— ターゲットはどこに置くのですか

か

一柳 企業経営者です。大企業、中堅企業、ベンチャー、どんな業態でも構いません。そこでモデルケースを作り上げ、レポートを見て評価をし、次の活動に繋げていく、そういう連鎖を繋げながら、次々と実行していくことが肝心なのです。

—— 最後に日本の現状における課題はどこにあるのでしょうか

一柳 一人当たりGDPでも2位から38位に転落し、お世辞にも「世界から尊敬される」とは言い難い状況で、完全に沈没しています。とくに個人の能力は著しく低下していると思います。ですから生産性も低く、円安も回復できません。そうした状況下で、今取り組んでいくこうとしていくのは、ベンチャー企業の巨大化です。さらに人間の価値の創造という観点での人材育成ですね。

—— 一柳さんは、いつの時代でも未来志向の姿勢を貫いているということですね

一柳 そう言つただけで光栄です。

—— きょうはどうもありがとうございます